

<p>1. 教育目標</p> <p>○豊かな生活体験や遊びに幼児が主体的に関わり、未来に向かってたくましく生きる基盤を育てる</p>	<p>2. 本園の目指す幼児像</p> <p>○自ら考え行動できる子ども（意欲・思考・自立・自律）</p> <p>○豊かな感性が育ち、生き生きと表現する子ども（発想・工夫・自信）</p> <p>○自己も他者も尊重して良い人間関係を築ける子ども（快活・協調・思いやり）</p>	<p>3. 本年度の重点的に取り組む目標</p> <p>○様々な体験や遊びを通じて、幼児1人1人の豊かな感性が育まれていく保育の在り方を考える</p> <p>○業務の分掌を通じて、円滑で良好な組織作りを心掛ける</p>
---	--	--

4. 評価項目の達成および取り組み状況

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果							コメント
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	
<p>考える</p> <p>○様々な体験や遊びを通じて、幼児1人1人の豊かな感性が育まれていく保育の在り方を考える</p>	<p>幼児の育ちや学びを踏まえた行事や活動内容の取り組みを心掛ける</p>	4	幼児の育ちや幼児へのねがいを基に、行事や活動内容の教育的意義を意識しながら保育に臨む	3.2	4	日々の幼児の姿から育ちを捉え、ねらいを意識した保育実践に取り組み振り返り、保育を改善するようになった	3.3	A (3.3)	<p>・様々な体験や行事に参加することの教育的意義を常に意識しながら、幼児の育ちを促していくような保育に臨むことが出来た。</p> <p>・体験後に振り返りをする中で、達成できなかった課題や改善点を見出し、今後の保育活動に生かしていきながら、幼児の育ちを育てていくことができたと思う。</p> <p>・改めて活動や行事のねらいを協議し共有する事で、多角的な視点から幼児理解を深めていくことができた。</p> <p>・課題としては、従来の様式に拘らず、目の前の幼児の姿から、今までの体験や行事を変容させていく教師のより柔軟な発想や保育の展開が必要になってくると感じた。</p>
		3	幼児の状況、興味関心を踏まえ、行事や活動内容を練り直していく (指導計画・保育活動の見直し)		3	活動後の振り返りから反省や改善点を見出すことで課題が明確になり、次の行事や活動に向けての意欲に繋がっていった			
		2	行事や活動に取り組みながら、幼児の様子(姿)や状況を捉える		2	行事や活動に参加する幼児の姿(表情やつぶやき等)を感じるようになった			
		1	前年と同じ行事や活動内容を進めていく		1	行事や活動の準備や手順が理解できるようになった			
	<p>自分の思いを表現し、表情豊かに自己発揮できるような保育の展開</p>	4	思いや言葉を伝え合う喜びが感じられるような場の設定や遊びの内容等の工夫をする	3.4	4	友達と思いを出し合い、共感したり喜びを感じたりしながら、遊びにじっくりと取り組むようになった。(多様な遊びを展開するようになった)	3.2	A (3.3)	
		3	幼児が表現している言葉や表情から、伝わった喜びを幼児が感じ取れるように共感したり、言葉や表情で応えたりする		3	教師や友達に自分の思いを伝えるようになり、豊かな表情で園生活を送るようになった			
		2	幼児なりの表現を受け止め、言葉や表情で示して返していく		2	自分の思いが伝わったことに満足感を味わうようになった			
		1	幼児の表情に着目し、言葉にならない幼児の思いに着目する		1	自分の気持ちを伝えようとするようになった			

○業務の分掌を通じて、円滑で良好な組織作りを心掛ける	園務分掌の体制整備と適切な運営	1	分掌事務に関する記録を残し、次回に活用できるようにする	1, 9	1	各担当者は課題や改善点を職員会議で提案するようになった	2, 7	C (2, 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・園務は多岐にわたるため、煩雑になってしまうことが多かったが、今年度は各々が担当した内容や改善点などを文章だけではなく写真や図で示すなどの工夫が見られる。次回に生かせる記録の作成という意識が高まってきている。 ・終礼やカリキュラム等において、報告・連絡・相談等はより積極的に行われ、定着してきた。 (LINEも有効に活用している) ・同学年間での園務の見直しや精選、業務の遂行はその都度話し合い実施できているが、担当者の学年が異なると業務の遂行に支障が出るときがある。それぞれの学年の状況や各自の意識に差が生じている。進捗状況の報告がうまくいっていないことも原因と考えられる。 課題として、園務内容の示し方の改善や園務の進行状況等の情報共有のやり方に検討の余地があるように感じる。 	
		1	園務分掌の内容を各自が意識できるような示し方を工夫する		1	進捗状況に関して互いに気に掛け、必要に応じて協力するようになった				
		1	担当した園務分掌の遂行、進捗状況の報告・協議等を行う		1	各担当者が自分の役割を自覚し、見通しをもち、計画的に進めるようになった				
		1	園務の内容を見直し精選する		1	報告・連絡・相談が積極的に行われるようになった				
	園務の効率化と就業時間の適正化		1	担当した園務の進捗状況を終礼で報告し、全体で把握する	2, 5	1	全体で業務を捉えることで効率が上がり、定時の退社を保ちつつ、必要な業務に取り組むことができた	2, 5	C (2, 5)	<ul style="list-style-type: none"> ・園務の内容を可視化したことで、業務の分担（短時間勤務職員との分担）担当の役割分担、時間の調節等が図られ効率が上がっている。それは、行事前の準備の短縮に実感することができた。 教師間のフォロー体制は定着してきているが、教師一人一人の意識（他学年への配慮。時間への配慮。）がさらに上がっていくとより良好な組織づくりにつながると感じた。さらに改善が必要である。 ・得意分野を生かした園務分掌は、教師の気持ちの負担軽減やモチベーションをあげるために役立っているようだ。
			1	会議や園内研修は事前に計画を立て、終業時間を決めて実施する		1	会議や研修の時間調節の為、園のスケジュールを職員全体で把握し、各々の業務配分考えられるようになった			
			1	得意分野を生かした園務分掌を行う (業務の時間確保・教師間のフォロー体制の構築)		1	教師間の円滑なフォロー体制が定着してきた			
			1	園務の内容を可視化し、共通理解を図る		1	園内の業務を可視化したことで、園務の全体像を共通理解出来た			

○取組と成果に関する評価結果

A：とても良い B：まあまあ良い C：普通 D：良くない（要検討）

○総合的な評価

評価	理由
B	<p>・今年度の自己評価から得た成果の一つは、日々の遊びや活動・行事のねらいを意識し丁寧に保育を実践していく手ごたえを教師一人一人が実感したということである。</p> <p>多様な遊びや活動、様々な行事を体験することは、幼児の園生活に潤いを与え成長を促す。だからこそ、幼児のありのままの姿を捉え、日々の遊びや現状に応じた活動、行事内容の在り方を精査・選別し、柔軟に変容していかなければならないと強く感じた1年であった。</p> <p>・幼児が自分の思いを表現するようになるための基礎は、相手から共感されることから始まるといっても過言ではないだろう。日々の園生活の中で教師や友達とどれだけ気持ちを通い合わせることができたか、心揺さぶられる体験がどれだけあったのか、それらが多ければ多いほど、自ずと幼児の表情や表現力は豊かに育まれていくのだと実感した。</p> <p>年度初めの硬い表情から比べて、現在（卒園・進級前）の幼児の表情は明らかに豊かになっていることは言うまでもない。この1年間教師1人1人が大切に取り組んできた成果だともいえる。</p> <p>これからも教師は常に願いをもち、体験から育まれる『幼児の育ち』を大切にしながら日々の保育に取り組んでいきたい。</p> <p>・多岐にわたる園内業務を可視化したことで、教師の園務の効率化に非常に有効であったことが成果の1つとしてあげられる。効率が上がったことで教師の意識に変化があり、見通しをもって目の前の仕事を進めていくことができた。また、適切な園務分掌ができたことで、それぞれが集中して取り組む事が出来たのではないだろうか。</p> <p>以前は行事前日の準備には時間がかかっていたが、今年は予定時間内に終了できた。教師間に時間内に終わらせる感覚が定着し始めてきたことを実感した。しかし、時折、内容優先（ここまで仕上げたい）になることがあるため、お互いのクラスの業務にも配慮できるリーダーの意識を変えていくことが必要である。これは今後の課題である。</p> <p>・教師自身が職場での豊かな生活を送ることで人間性を高め、保育の質向上につながっていく。今年度の取り組みを通して園務環境の整備、円滑でお互い成長し合える組織づくりへの整備をより充実させるきっかけとなったように感じる。</p> <p>園務内容の示し方の改善や業務の進捗状況の共有などと課題は多いが、教師間の意識は着実に変化してきている。次年度の職場環境がより良くなっていくように、引き続き取り組んでいきたいと考える。</p>

5、今後、取り組む重点的課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	・幼児1人1人の育ちを促す教師の関わり方や、保護者支援の在り方を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解を深めていくため、個人記録の見直しを図る。 ・担任だけでなく教職員で周知できるよう、幼児の関わり方を情報化して共有するシステムを考える。 ・「個人懇談会」や「保育ママ」の体験を生かして、集団の中での幼児の様子や今後の援助の方法を保護者と共有していく。
2	・同僚性を高めながら、より良い職場環境の構築を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の業務分掌を可視化したものを活用していきながら、多学年の業務にも意識して配慮していけるよう心がける。 ・同年齢や異年齢の担任と定期的に関わっていける様な、業務体制の見直しやより有効な職員間のコミュニケーションの図り方を工夫していく。 ・引き続き勤務体制を整えながら、業務の分担や就労改善を心掛けていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・「豊かな感性」という点では、まず身近な事に気付くこと。「綺麗なものをみて綺麗と思えるようになる」これこそが感性を磨くという事であろう。またその感性の基盤としては「道徳性」「人権」があげられる。相手の気持ちを考え、なぜそうしないといけないのか、また次に起こりうることを想像（イメージ）する等の力が就学後に求められる。そのような力（考える基盤）を幼児は「遊びを通じて」学んでいるのだと感じた。
- ・子ども達が生き生きとした姿で園生活を過ごしているのを公開保育でいつも感じている。しかしその裏には教職員の働き方と保育の質向上を考えた「時間の使い方」への意識や努力が伺える。コメントの中で「教師自身が時間内で業務を終わらせる感覚が定着してきた」とあった。この「感覚」という点がとても重要で1人1人が意識してきたからこそその結果であろう。
- ・園で取り組んでいるわらべ歌や昔から親しまれている絵本を読むことは園だけでなく、家庭でのコミュニケーションのツールとして生かされている。園で歌っているわらべ歌を、祖父母と一緒に3世代で歌ったり絵本を読んだりすることで家族の絆の深まりを感じることができた。
- ・幼児1人1人の育ちに丁寧に寄り添いながら、保護者と共に育んでくれる先生たちには感謝している。しかしながら職員の業務が多すぎると、子どもに寄り添う事すら難しくなると思う。業務の削減や働き方改革で職員自身の「幸福度」を上げることも大切であると思う。保護者も業務の一部を手伝える「手仕事の会」の機会を増やしてはどうだろうか。
- ・手仕事の会は、保護者同士の情報交換の場や交流の場となった。子どもの遊びの材料や行事の準備の手伝いをしながら保護者同士の繋がりが増えたように思う。もっと回数を増やしたり、仕事をしている保護者も多いので平日だけでなく土曜日などを活用して開催できたりしたら、より繋がりが広がるのではないかと思う。また市民センターなども活用して地域とのつながりも深めていけたらと感じる。

委員会実施日 令和7年3月28日